



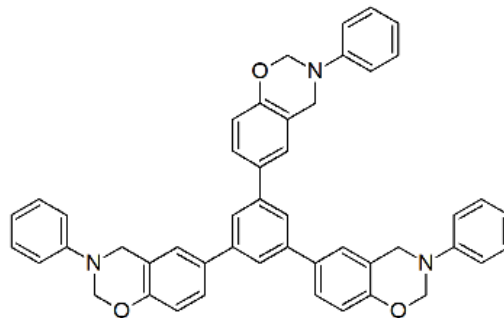
## 三官能性ベンゾオキサジンおよびその硬化物に関する JSRとの独占的通常実施権許諾契約締結について

日本材料技研株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長 浦田 興優、以下「日本材料技研」）は、このたび、JSR株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 川橋 信夫、以下「JSR」）が保有する三官能性ベンゾオキサジン（以下「本モノマー」）およびその硬化物に関する特許について、独占的通常実施権許諾契約（以下「本契約」）を締結しました。

本契約の対象となる本モノマーは、JSRが開発したベンゼン環を中心にして3つのオキサジン環を持った星型構造を有するベンゾオキサジンです。ベンゾオキサジンは、加熱することによって無触媒で開環重合が進み、低硬化収縮性の熱硬化性樹脂であるポリベンゾオキサジンを得ることができる環状モノマーの総称です。ポリベンゾオキサジンは、架橋反応によってフェノール樹脂と類似のネットワーク構造を形成するため「新規フェノール樹脂」と呼ばれることもあります。ポリベンゾオキサジンは、フェノール樹脂に類似した耐熱性、難燃性、電気特性、力学特性に加え、低吸湿性、低誘電特性、低線熱膨張性など優れた特性を持ちます。こうした優れた特性から、航空機で用いられる炭素繊維強化プラスチック（CFRP）のマトリックス樹脂や、電子部品に使われる熱硬化性樹脂の改質剤などにおける実用化が進んでいます。本モノマーは、含有する3つのオキサジン環の開環重合によって高度に架橋が進み、豊富な分子間および分子内水素結合を有するポリマーネットワークが得られるため、より高耐熱な熱硬化性樹脂を得ることが期待されます。

日本材料技研では、本契約によって取得した独占的通常実施権を活用し、主に複合材料メーカーや熱硬化性樹脂メーカーに対して本モノマーを供給することで、早期の事業化を図ってまいります。

<本モノマーの構造>



日本材料技研では、これまでにBNFO系負熱膨張材、高耐熱低塩素エポキシ樹脂、ダブルデッカー型シルセスキオキサンなど、高耐熱樹脂関連材料の工業化に取り組んでいます。炭素繊維などを用いた複合材料の難燃・高耐熱化や、5G（第五世代移動通信システム）に対応した電子部品の低誘電化など、高耐熱樹脂に対する市場ニーズは急速に拡大・多様化しています。日本材料技研では、今後も独自性のある高耐熱樹脂関連材料の製品化に対して積極的に取り組んでまいります。

日本材料技研は、機能材料分野に特化したファブレス型スタートアップとして、国内の企業や大学等で開発されながら事業化に至っていない新素材技術について、ライセンスアウトやカーブアウトを通じた事業化に取り組んでいます。会社設立以来これまでに、企業5社と大学2校から、有機材料・無機材料・バイオケミカルに関する技術導入を行っています。今後も、企業が開発した未活用技術の商業化を進めることで、日本の素材産業におけるイノベーション創出に貢献してまいります。

以上